

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第18号】

発行人 三寺勝美

事務局 長野市西長野6ノロ

信州大学教育学部内

TEL・FAX (026) 238-4370



## 同窓生と大学との つながりを深めたい

同窓会会長 三寺勝美

中田宣彦前会長の後を引継ぎ、この度、第九期会長となりました三寺勝美です。非力であり、この重責を遂行できるものではありませんが、会員の皆様のお力添えを得て懸命に努めます故、よろしくお願ひ申し上げます。

本年度のねらいといたしましては、まず、最初に会員の皆様から同窓会を知っていただきたいと願っております。

①毎年、八月十一日午前十時より、ホテル「信濃路」において総会を開催しております。会員の親睦を深め合い、学部支援活動を進めております。この総会に誘い合つて是非参加してください。

②学部支援を含めた同窓会の諸活動は、本部理事七名・地区理事二十名・幹事七名の役員が中心となつて進めております。

③同窓会事務局は、教育学部内にあります。現在、杵淵恭宏事務局長、伴真理子事務局員が担当し

ております。

④同窓会のホームページも開設しております。会員の活動や、教育現場での活動を進める中で、信州大学の先生方の協力が必要となる場合等は、この事務局・ホームページを積極的に活用していただきたいと思ひます。

平成十六年四月一日より、国立大学はなくなり、独立法人化いたしました。教育学部における六カ年の中期目標計画を達成していく上でも、地域との連携がその大きな評価対象となります。会員同士の親睦を深め合うとともに、大学とのつながりを深め合つていくことが重要課題の一つとなっております。年間を通して、より多くのアクセスをお願いいたします。

⑤最後に、会員と大学・学部とのつながりをさらに深めていくためにも、終身会費一百万円の未納となつておられる方は、是非、事務局へ一報をお願いいた

たします。

教育学部卒業生は、全員が会員となつております。未納者の会員には、地区理事より毎年納入願ひ通知が送付されております。同窓会の発展のためご協力をお願いし、挨拶いたします。

### 第九期同窓会役員名簿

(平成十五年八月〜平成十七年八月)

名誉会長	赤羽貞幸
顧問	倉田稔 新井好仁 清水正 佐野昌男 中田育成 中田宣彦
会長	三寺勝美
副会長	玉川隆雄 傳田典順 柳初美
監事	清水厚実 矢嶋直徳
本部理事	村田弘之 清水美和子 野口宗雄 別府桂 上條厚 齊藤忠彦 酒井英樹
地区理事	下伊那 清水貫司 上伊那 高野普 諏訪 嶺豊彦 木曾 大道忠 北安曇 中沢俊晴 南安曇 望月文規 松本 西澤清司 佐久 佐藤明 上小 柳沢和夫 更埴 西村安行 上水内 小柳義男 上高井 清水真 下高井 小田切澄男 飯水 山本信行 塩筑 荻村昭夫 長野 井出光信 長野 松本清子 高校 春日一俊 県外 功刀道子 県外 井出良子 徳富雄司 糟谷房枝 山崎芳實 牛山とも子 中村浩志 滝沢 幸
事務局	岩田靖 杵淵恭宏 伴真理子

# 第十六回 同窓会 通常総会 報告

平成十五年度の通常総会は、定例の八月十一日(月)、長野市中御所の「ホテル信濃路」において四十六名の出席者を得て開催された。

西村敦子幹事の進行のもと、清水美和子副会長の開会宣言、中田宣彦会長の開会挨拶に続いて、議長団に北村敏幸・遠藤正敏、議事録署名人に花岡實・小田切澄男の各氏を選任、書記に上條厚・齊藤忠彦の各氏を任命して議事に入り、次の三議案が審議された。

### ○第一号議案

平成十四年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十四年度の事業について、別府桂幹事より平成十四年度の歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がなされ、また清水厚実監事より「適正に処理されている」との会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

### ○第二号議案

平成十五年度事業計画書(案)及び歳入・歳出予算書(案)の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より、平成十五年度の事業計画、別府桂幹事より平成十五年度の歳入・歳出予算書(案)についての説明があり、原案通り全員一致で承認された。

### 【平成十五年度事業大綱】

- 一、同窓会報 「第十七号」発行、会員・入会者への発送
- 二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助

- 三、学部後援 教育学部・大学院充実にむけての援助
- 四、組織充実 支部組織の強化、他
- 五、長期構想 総会のあり方・基本財産の運用、他

### ○第三号議案

第九期役員の見直しに関する件  
第九期役員の任期満了に伴い、第九期役員に関して提案され、原案通り次の各氏が選任された。会長に三寺勝美、副会長に玉川隆雄・傳田典順・柳初



記念講演会 中村浩志氏

第16回同窓会通常総会 会長挨拶

## 平成14年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成14年4月1日  
至 平成15年3月31日

歳入合計額 5,672,781円也  
 歳出合計額 5,193,543円也  
 差引残額 479,238円也 15年度へ繰越

### 歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	371,423	371,423	0	
2 会費	5,800,000	5,260,000	△540,000	263名入金
3 雑収入	30,000	41,358	11,358	利子・御祝儀
歳入合計	6,201,423	5,672,781	△528,642	

### 歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	600,000	343,918	△256,082	総会・役員会等
2 事業費	1,080,000	1,020,047	△59,953	会報・学部後援等
3 事務費	2,105,000	1,934,895	△170,105	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑費	140,000	88,683	△51,317	学部謝礼・御祝儀等
6 予備費	470,423	0	△470,423	
歳出合計	6,201,423	5,193,543	△1,011,090	

美、監事に清水厚実・矢嶋直徳の各氏。また、名誉会長に赤羽貞幸教育学部長、顧問に中田宣彦前会長が推薦され、全員一致で承認された。

議事終了後、臨席の北條舒正元信州大学学長(信州大学繊維学部同窓会「千曲会」代表)、赤羽貞幸学部長より祝辞をいただき、清水美和子副会長の閉会宣言で総会を終了した。

総会に引き続いて、信州大学教育学部教授の中村浩志氏による記念講演会が開催された。カッコウの研究成果を中心に、野鳥の研究を通して見えてきたという日本の自然と文化についてご講演をいただいた。

## ご挨拶

教育学部長

赤羽貞幸



日頃、教育学部の教育活動に深いご理解を賜り、多大なご支援ご協力をいただいております。同窓会ならびに同窓会員の皆様はこの場をお借りし御礼申し上げます。

この四月より信州大学も法人化し、教育学部も信州大学を構成する一学部として新たなスタートをいたしました。昨年四月からの一年間は法人化に向けた準備に追われながら、大学の極めて大事な時期に身を委ね、忙しい中でも学ぶことの多い一年を過ごしてまいりました。今新しい大学の運営は、学長を中心に理事からなる役員会ができ、学長のリーダーシップのもとに責任ある運営体制ができてつつあります。これにともない事務組織や学部組織も今年一年の検討期間を経て大きく変わるうとしています。

大学の役割は教育と研究を軸にして、新たに社会貢献や国際貢献が加わり、地域社会での存在価値が問われることとなります。大学の教職員の身分や勤務体制も、国家公務員から国立大学法人の教職員となり、適用される法律も労働基準法や労働組合法等に変更されました。大学教官は大学教員となり、専門業務型裁量労働制のもとでの勤務が行われております。

これからの大学は、大学での教育や研究がどのよう地域社会に貢献しているのか、大学の存在が地域にどれだけ貢献しているかが評価されます。そして、その評価に応じて大学を運営する交付費が税金から支払われることとなります。また、学生の納め

る授業料や入学金も大学運営の重要な財源となります。当然のことながら学生の教育に十分な力を注ぎ教育効果を高めることが、優秀な学生を集めることにつながり、地域社会における大学の存在を高めることにもなります。このことから大学で実施される教育の内容や質が極めて重要な課題となってきました。

信州大学教育学部の役割は、質の高い教員の養成であり、このことが最大の社会への貢献であります。このように教育学部の目標は明確であり、この目標に向かって教職員ならびに学生が一体となつて努力することが良い評価に結びつくと確信しております。また、質の高い教員を養成するためには、大学における授業等だけでは十分でなく、地域社会の協力や支援を得ることにより、学生が大きく成長することが可能となります。これからは、様々な場面で同窓会および先輩方のお力をお借りできればと考えております。

大学や学部における同窓会の果たされる役割も、これまでに増して確実に大きくなってきました。地域社会にどれだけ卒業生を送り出し、卒業生がどれだけ社会の中で活躍されているかも大学の社会的評価の重要な要素であります。また、大学の運営や在学生の教育に対する卒業生の声を代表するのは同窓会であり、まさに大学、学部にとつてもっとも身近な応援団が同窓会であります。

教員養成学部にとつての端的な社会的評価の指標は、学生の就職状況であり教員就職率であります。教員への就職の状況は、少子化の影響下でまだまだ厳しい状況にありますが、大都市圏の採用状況の変化、三十人規模学級の推進等に伴い少しずつ好転しております。幸い我が学部は一昨年、昨年、今年度と教員就職率が確実に上昇し、全国の大学と比較して高い就職率を維持しております。昨年十二月、文

部科学省から公表された平成十四年度卒業生の教員就職率では、我が学部が全国一位となり、新聞等でも大きく報道されました。この結果は、学生のがんばりはもちろんですが、先輩方や同窓会の皆様の支援、学部教職員の就職活動への取り組みなど多くの皆様の支援の結果であります。

今学部がこのようなよい状況を生み出すことができる環境におかれていることをたいへん嬉しく思うと同時に、このような時こそ更なる今後の飛躍に向けての努力を固らねばなりません。就職戦線はまだまだ厳しいものがあり、法人化後の評価に堪えられない結果を出し続けることができる教育支援体制を作り上げることが、これからの課題であります。

これまで我が学部は、「大学基準協会」や「大学評価・学位授与機構」による第三者評価を積極的に受け止めて実施し、比較的高い評価を得ることができました。高い評価を得た内容は特に、一年次から四年次に行っている「教育参加」「学校教育臨床基礎」「学校教育臨床演習」「教育実習(基礎・応用)」などの実践的指導力を育成する「臨床経験科目」群の実施であり、現在これらの体系化を試みております。今後、これらの教育システムの効果が教員への就職の結果にも明瞭に現れることを期待しているところです。

これからは、教員養成の質を高めるための工夫を試み力量ある卒業生を育てることが就職率を高めることにつながっていくことは確かです。また教育学部のおかれた状況には厳しいものがありますが、同窓会の先輩方のご支援を頼りに、学部の発展に向けて努力していく覚悟しております。

どうか、より一層のご指示ご指導を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。



以下に掲げるのは、平成十五年度における補助金交付者並びに研究テーマです。参考にしていただき、ふるってご応募いただきたいと思います。

氏名	所属	研究テーマ
① 袖山賢治	千曲市更埴中学校	色素増感型太陽電池の研究と教材化について
② 小林則雄	長野市松ヶ丘小学校	うら山を利用した総合的学習時間の実践
③ 所 洋一	岡谷市川岸小学校	植物に名札を付けることは、子どもたちに身近な植物に関心を持たせることに有効であるか
④ 畠山正幸	信濃教育会 教育研究所	学級づくりにおいて、個性と共同性をどう育てるか
⑤ 土屋正志	中野市南宮中学校	学び続ける意欲を育てる授業のあり方
⑥ 三澤晴男	木曾郡神坂小学校	旧神坂村の越県合併の経過とその後の歩み
⑦ 棚田祥子	下伊那郡高森中学校	友達と関わりながら情景や心情を思いえがいて歌唱表現を工夫する力をつけていくための指導
⑧ 長畦明人	南安曇郡豊科北小学校	基礎・基本の定着をめざしたe-learning教材の開発
⑨ 山上直子	長野市三輪小学校	対象(人・もの・こと)とのかかわりの中で、自分のよさに気づいていく子ども
⑩ 有賀 大	上伊那郡南郷小学校	学校におけるWebシステム

直接、教科の授業実践を対象にした教育研究はもとより、そのベースとなる教材・教具の工夫についての基礎的な研究も含んでいます。また、特別活動なども重要です。さらにより広く学校教育における多様な諸活動や学校環境に関わる事柄も視野に入れております。

(教育学部同窓会事務局)

### 学部の近況から

#### 長野市教職員十年研修への教育学部の連携

附属教育実践総合センター長 高橋 渉

平成十一年四月に中核市に移行した長野市は、すでに初任者研修などの実施母体となっていました。平成十五年四月、十年経験者研修の法制化に伴って、同研修の実施母体にもなることが決まりました。平成十四年十二月に長野市教育委員会より、十年経験者研修の一部を本学部が担当して欲しい旨の、正式な依頼がなされました。従来から、教育学部附属教育実践総合センターは人間、実践、情報の三分野それぞれにおいて、地域連携の窓口としてさまざまな実績を持っておりまして、このプロジェクトの内容の検討に入りました。平成十五年一月の教授会において市教委からの依頼を教育実践総合センターが窓口となつて受託することが了承され、すぐさま実質的内容の検討に入りました。センターはさつそく市教委の担当者の実施計画の概要を協議し合意からわずか二ヶ月足らずのうちに次のような事項を確定させました。

- 信州大学教育学部においては長野市教育センターを中心として実施が予定されている校外研修全十五日間のうちの合計六、五日分を担当することとなりました。次に掲げるのはその内容の項目です。
- 教科指導研修
  - 三日間
  - 三、五日間
- 生徒指導等研修
  - その内訳
    - ・不登校児童生徒の理解と援助 一日

・教育相談の体験と指導の実践 一日

・「道徳」学習指導 半日

・指導と評価の一体化 半日

・総合的な学習の時間の指導 半日

センターでは、教科指導研修の計画立案と学部教官(当時の呼称、現在は学部教員)の協力体制の確立に着手しました。特に教科指導研修の内容については、受講者のニーズに対応し日常の指導に活かすことができるようにとの要望を容れ、三日間の教科指導研修を「教科指導研修Ⅰ(授業参観)」、「教科指導研修Ⅱ(授業研究)」、「教科指導研修Ⅲ(教材研究)」で構成しました。

「授業参観」では、それぞれの教科の研修教員がお互いの授業を参観しあい、次に実施される授業研究の際の参考となるように授業はビデオ録画されました。その際、必ず一人以上の学部教員もこの授業を参観させていただきました。

夏期休業に入ってから、この授業参観をもとに、学部教員と授業を担当した研修教員が一日をフルに使って授業研究を行い、さらに教材研究として半日ずつ二回、学部が用意した二十二講座からシラバスを読んで希望の二講座を受講しました。生徒指導等の研修については、不登校児童生徒の理解と援助、教育相談、道徳学習の指導、指導と評価の一体化、ならびに総合学習(総論、環境、国際理解、情報)などが同じく夏休み中に実施されました。

初めての試みであったにもかかわらず、十年研修の意義を十分理解された学部教員の絶大な協力の下に同プログラムは成功裏に終了し、本年度以降も継続して実施されることに決まりました。単なる地域貢献の一環としてのプログラムであるだけでなく、これからの本学部の果たすべき多様な責務のあり方を構成員全員が自覚した貴重な機会でありました。

就職状況

就職委員長 栗原 久

長引く不況、経済構造の変化、若者の就労意識の多様化などから、近年、大学卒業者の就職率（アルバイト等を除く）が大きく低下しています。平成二年には大卒者の八十一%が就職していたのに対し、十五年には五十五%しか就職していません（できていない）のです。大学生生活を終えても、四十五%の者は正規採用の職には就けていない状況です。一方、平成十四年には、約三十一%の大卒者がいわゆるフリーターになっています。二年には七%でしたから、新卒フリーターは急増です。

このような就職状況の中、平成十五年度の卒業生・修了生（新課程）の進路状況は、下の表のようになっています。平成十四年度の就職率は八十七%でしたので、全体の就職率については、ほぼ昨年度と同じです。

教員採用については、昨年十二月、うれしいニュースが文部科学省から発表されました。平成十四年度の教員養成課程卒業者の教員採用率が六十九・九%で、全国の教員養成大学・学部の中で第一位であったというものです。十五年度の卒業者については六十七・一%で、やや下がりました。なお、学部卒業生（新課程）のうち、約十五%は教員以外の職に就いています。

平成十年を底に、教員への就職状況はやや改善されました。しかし、大卒者の就職が、全体として厳しい状態は続いています。

就職委員会では、教員採用ガイダンス、模擬集団面接試験、公務員・民間企業就職ガイダンスなどを実施し、就職率のいっそうの向上をはかりたいと考えております。

平成15年度卒業生・修了生 進路状況

平成16年3月31日現在

Table with columns for department, school type, and career path. Rows include various education courses like '臨床学校教育学' and '総合生活科教育'.

(注) ( ) は臨探で内数、○は外国人留学生で内数

Summary statistics table: 就職率(学部) 86.3% (進学者を除く), 教員就職率(学部) 69.2% (進学者を除く), 教員養成課程卒業者に対する教員就職率 69.2%

学部の新転任・転退職教官の紹介

【平成十五年度～十六年度新転任教官】

川村康文先生(理数科学教育講座)

京都教育大学教育学部高等学校より転任

関 良徳先生(社会科学教育講座)

岩手大学教育学部より転任

酒井英樹先生(言語教育講座)

上越教育大学学校教育部より転任

田島達也先生(芸術教育講座)

群馬松嶺福祉短期大学より新任

小野文子先生(芸術教育講座)

佐賀大学より転任

村瀬公胤先生(教育科学講座)

東京大学基礎学力研究開発センターより転任

武者一弘先生(教育科学講座)

名城大学教職センターより新任

山岸明浩先生(生活科学教育講座)

新潟女子短期大学より新任

【平成十五年度転退職教員】

大城康宏先生(芸術教育講座)

昭和四十五年一月着任、死去(平成十五年四月)

大村道雄先生(生活科学教育講座)

昭和四十五年五月着任、定年退職

小林輝行先生(教育科学講座)

昭和四十九年三月着任、定年退職

笠原明子先生(芸術教育講座)

昭和五十一年十月着任、定年退職

馬場将光先生(教育科学講座)

昭和五十三年四月着任、白鷗大学へ転出

吉森佳奈子先生(言語教育講座)

平成十二年四月着任、筑波大学へ転任

小林 勉先生(スポーツ科学教育講座)

平成十三年四月着任、中央大学へ転出

会員の声

母校への着任に寄せて

信州大学教育学部助教授

(第四十二回生・大学院第四回生)

酒井英樹

私は今年二月一日に本学に着任いたしました。前任校は上越教育大学です。その前は長野県内の上小地区と下伊那地区で合計五年間中学校に勤めていました。専門は英語科教育です。

平成元年四月に信州大学教育学部中学校教員養成課程英語科に入学しました。そして、平成八年三月に信州大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修を修了するまで、かなり長い間、この西長野キャンパスで過ごしました。

北校舎に入り、階段を使って二階に行き、右に曲がって進んでいくと、右手に英語科の演習室があり、左手に先生方の研究室があります。見慣れた景色です。約八年ぶりに戻ってきたのですが、学生ではなく教員として西長野キャンパスにいることに違和感があります。

渡邊時夫先生(信州大学名誉教授、現清泉女学院大学人間学部学部長)の研究室に所属し、英語教育や外国語習得理論を学びました。渡邊先生をはじめ多くの先生方に教えていただく中で、私は自分の研究テーマと出会うことができました。自分が指導を受けた研究室で今度は私が学生を指導することになりました。精一杯頑張りたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

大切にしたい仲間、そしてそこから

附属松本中学校教諭(第三十一回生)

河口 孝

信州大学教育学部を卒業して二十二年、私は、今、信州大学教育学部附属松本中学校で四年目を迎え、厳しい中にも充実した生活を送っています。

附属学校では、大学の教育学部生を教育実習として受け入れることと、学部附属の共同研究といった二つの面で大学とのつながりがあります。今の自分の礎を築くことができたこの大学に非常に愛着を持っていた私にとって、再び大学と直接的に関わることはできるようなったことは、つらい中にも嬉しいことでした。大学には、当時お世話になった先生方がいらつしやるのです。自分をまだ覚えてくださっていることの嬉しさは力になります。しかし、自分の力になってるのは先生方だけではありません。同窓生の存在です。

私には、自慢できる同窓生が大勢います。その中で最も自慢できる同窓生、それは、同期の保健体育科の仲間です。昭和五十四年度入学保健体育科の仲間は、卒業以来毎年同窓会を行っています。一年としてあげたことはありません。私の出席率は、半分くらいですが中には、ほぼ全出席の仲間もいます。そんな仲間をもっていることを私は誇りにさえ思います。一年に一遍は、何とか集うことができる場があること、そこで日頃の学校のことや自らのスポーツライフについて、家族のことについて夜の更けるのも忘れ、酒を酌み交わし語り合う……。教員をここまで続けてくると、新しいネットワークが広がりますが、私にとっては、自分自身の全てをさらけ出した青春時代の保健体育科の仲間との関係がすべてのネットワークの礎になっていると確信しています。

信州大学教育  
学部同窓会

# 第十七回通常総会(通知)

**日時**  
平成16年8月11日(水)  
午前10時より

**会場**  
長野市岡田町「ホテル信濃路」

**次第**

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事  
第一号議案 平成15年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について  
第二号議案 平成16年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について  
第三号議案 役員人事について
6. 来賓祝辞・代表挨拶
7. 閉会宣言

**記念講演会**: 12時より  
講 師: 渡邊時夫

**祝賀懇親会**: 13時より

## 記念講演 (一般公開)

### 英語活動の

### 小学校教科化を考える

長野県の実情や実践例を  
ビデオで紹介しながら



渡邊時夫氏

清泉女学院大学教授・人間学部長  
(信州大学教育学部名誉教授)

莫大な時間とエネルギーを使いながら、英語の使用能力がアジアでも最下位に近い日本人。「英語が使える日本人の育成」を目指す日本の英語教育を構造的に改革するためには、英語を小学校に導入することが不可避だと考えます。

韓国では、すでに八年前から小学校に英語科が導入されています。韓国の英語教育や、日本の小学校英語活動実践の様子などを紹介しながら、英語教育の改革についてお話ししたいと思います。

プロフィール  
一九三七年 長野県小諸市生まれ

一九六〇年 信州大学教育学部卒業  
一九六五年 ハワイ大学大学院言語学科修了  
(MA取得)

長野県中学校・高等学校(野沢北・上田)教諭を経て  
信州大学教養部講師

一九七六年 信州大学教育学部助教授  
一九七八年 同助教授  
一九八二年 信州大学教育学部助教授  
一九八五年 同教授

二〇〇三年 信州大学定年退官  
同年四月 清泉女学院大学教授(人間学部長)、  
現在に至る

全国英語教育学会理事、中部地区英語教育学会会長、全国小学校英語教育学会副会長、日本児童英語教育学会理事、日英・英語教育学会顧問。  
日英・英語教育学会賞受賞(二〇〇二年)。

**主な著書**

『英語が使える日本人の育成』(三省堂)  
『新しい英語科授業の創造』(桐原書店)  
『英語教育のスタイル』(研究社)、など多数。  
文部科学省検定教科書・編集顧問(中学校のNew Crown 三省堂、高等学校のOrbit 三省堂)。小学生的ための英語教科書編著。その他、英和辞典、和英辞典の編集、など。

## 事務局便り

○住所変更届を忘れずに  
転居の際には住所変更の届を事務局宛にお願い致します。毎年宛先不明でお送りした会報が多く戻ってしまっています。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて  
同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会の会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた方は納入済みです。二重払いされた会費はお返しますが、振り込み手数料等が引かれますので全額返金出来ません。

○名簿発行案内に付いての注意  
某出版社より「信州大学教育学部同窓名鑑」発行に付いてのハガキが卒業生に来ておりますが、教育学部同窓会とは何の関係もありません。



http://taaedu.shinshu-u.ac.jp  
Email:kdousou@gipnc.shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。